

長い戦乱に苦しんだ『三国志』の時代



天下三分の戦乱時代ののち、侵入した異民族の国家が興亡する時代が続く。

群雄割拠の動乱から異民族の侵入、漢民族の大移動へ

後漢（P43参照）末期は政治が乱れ、農地の荒廃による飢饉が頻発した。高官や豪族が勢力を伸ばし、群雄が割拠する時代となったが、とくに大きな勢力となったのは、華北の曹操、江南の孫権、四川の劉備であった。220年、曹操の子の曹丕が後漢の献帝に譲位を迫り、魏を建国すると、孫権が呉を、劉備が蜀を建て、三国が並び立つ時代となった。三国の対立は、元朝末期以後に出た小説『三国志演義』に描かれてよく知られるが、民衆は戦乱と飢饉に苦しんだ時代であった。

魏は、屯田制や九品中正法によって国力をつけ、蜀を併合するが、有力武将の司馬炎（武帝）が帝位を奪い、晋（西晋）を建てた。晋は280年に呉を滅ぼし、中国統一を果たすものの、八王の乱とよばれる王族の争いにより内乱状態となった。

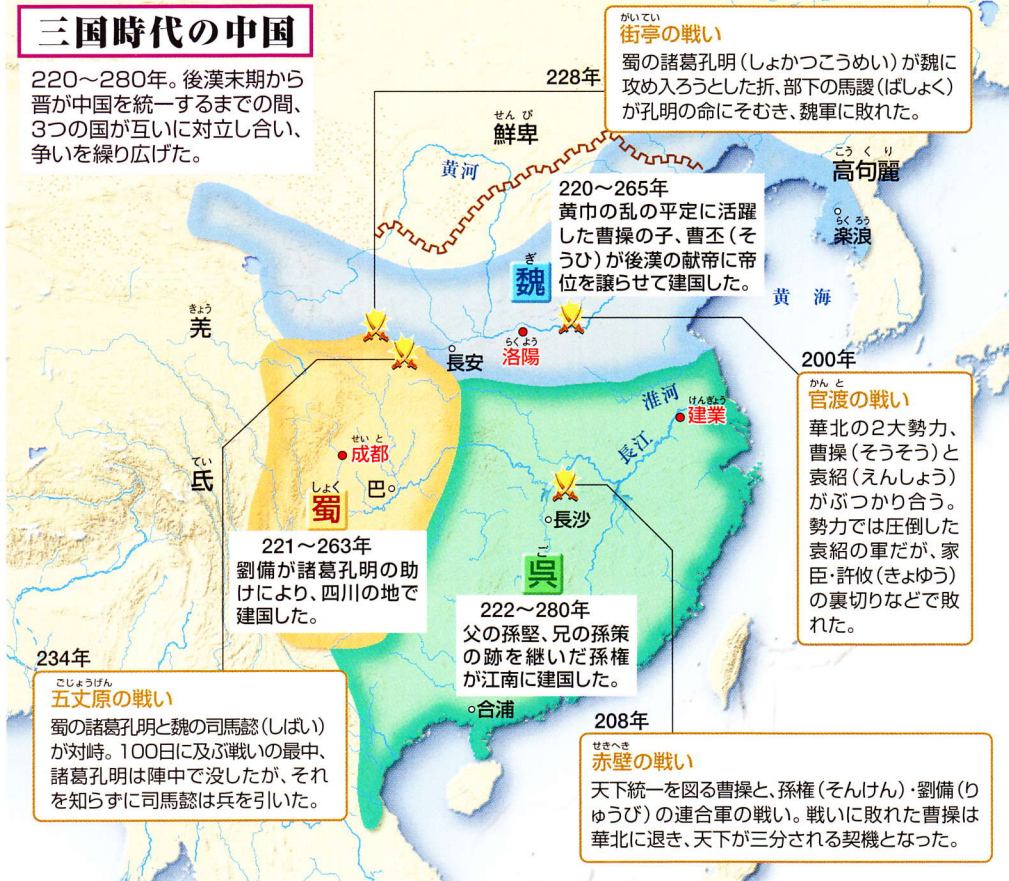
この機に乗じて遊牧民の五胡が華北に侵入し、316年に晋が滅亡。華北の漢民族の多くが、戦乱を避けて江南・長江流域以南に移動した。晋の一族である司馬睿は、江南の稲作地帯を基盤とする東晋を建てた。

華北では、五胡を中心とする16の王朝がめまぐるしく盛衰したため、この時代を五胡十六国とよぶ。

三国時代と五胡十六国

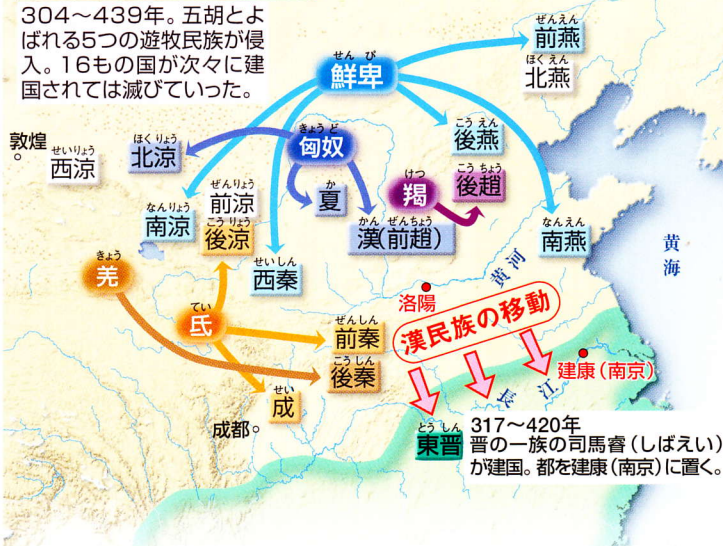
三国時代の中国

220～280年。後漢末期から晋が中国を統一するまでの間、3つの国が互いに対立し合い、争いを繰り返した。



五胡十六国と東晋

304～439年。五胡とよばれる5つの遊牧民族が侵入。16もの国が次々に建国されては滅びていった。



五胡	十六国	年
鮮卑	前燕（ぜんえん）	[337～370年]
	後燕（こうえん）	[384～409年]
	西秦（せいしん）	[385～431年]
	南凉（なんりやう）	[397～414年]
	南燕（なんえん）	[398～410年]
匈奴	漢（前趙）（せんちやう）	[304～329年]
	北凉（ほくりやう）	[397～439年]
	夏（か）	[407～431年]
羯	後趙（こうちやう）	[319～351年]
	後秦（こうしん）	[384～417年]
氐	成（せい）	[304～347年]
	前秦（ぜんしん）	[351～394年]
(漢民族)	後凉（こうりやう）	[386～403年]
	前凉（ぜんりやう）	[317～376年]
	西凉（せいりやう）	[400～421年]
	北燕（ほくえん）	[409～436年]